Otsuka Track & Field Team
since　1990

2003 年度

１区細川区間３位も１０位に終わる

全日本実業団駅伝（群馬県： 100.0km）
4 時間 54 分 49 秒（10 位）

大塚製薬10位

井幡4人抜き

1区細川区間3位

中国電力 初▽

1区3位で好走し、岩佐(右)にたすきを渡す細川＝高崎市役所前

全日本実業団駅伝

陸上の第48回全日本実業団対抗駅伝は1日、前橋市の群馬県庁前を発着点とする7区間、100キロのコースで行われ、中国電力が4連覇を目指したコニカミノルタは4時間49分5秒で2位。2区で23位に落ちた日清食品が巻き返し、3位に入り、旭化成が4位だった。

コニカミノルタが2区で首位に立ち、4区を終えた時点で2位の中国電力とは36秒差がついた。だが中国電力は5区に入ると、昨年の佐藤敦之が9キロ手前で松宮祐行を逆転し、そのまま逃り切った。

【詳】大塚製薬の終盤の追い上げは見事だった。

1区細川が区間3位の快走を見せたものの、エースも代表区間の2区で岩佐、4区でも代表の両主力がやや精彩を欠き、17位まで落ちた苦しい展開。しかし、勝負どころの5区で中森が区間12位と健闘。6区北川も区間12位と順位を上げると、アンカー井幡が4人を抜いてトップとタイムを上げる走りを見せた。

大塚製薬・河野匡監督の言葉　入賞は逃したが、終盤にねばり回し、順位を上げることができたのは収穫。岩佐は2区の22キロ、全体の中で身につけることが今後の課題だ。

大塚製薬・北川敬大選手（6区で区間6位と健闘）＝調子が上がっていたので、序盤から思い切って攻めた。（3区で34位だった）昨年は悔しい思いをしたので素直にうれしい

大塚製薬・中森雅也選手（5区で区間12位と踏ん張った）＝中森は⑥は「ラスト3キロは厳しい展開。」

日本人選手トップの力走

1区細川

新春の上州路を「青い鳥」駆け抜け（いなどん）が風を切って駆け抜けた。1区（12・3キロ）で区間3位の34分47秒をマークした大塚製薬の細川。日本人選手トップの力走に「会心の走りができた。最高の形でたすきをつなぐことができてうれしい」と大きく息を弾ませた。

レースはマサシ（スズキ）ジェンガ（ヤクルト）の両外国人選手と細川、大森（くろしお銀行）の4人が先頭集団をつくった。細川は9キロ地点でマサシのスパートにもペースを乱ず国際に挑む。「ピッタリ」と粘ることが出来るか、自分の術に苦しんだが、大森を振り切って中継点に飛び込んだ。

高校1年で陸上を始め、京産大からNTT西日本を経て、2002年に大塚製薬へ移籍。前回は5区（15・9キロ）で先頭争いを演じながら、残り1キロで失速した。「昨年の経験と悔しさがバネになった」。期待通りの走りに河野監督は「力のある選手ばかりではないが、うまく流れをつくってくれた」と力走をたたえた。

目標のアテネ五輪男子一万メートル日本代表に向け、好スタートを切った細川。2月には初マラソンとなる東京国際に挑む。「ピッタリ」と粘ることが出来るか、自分の力を試したい」とより一層の飛躍を誓った。（山口）

佐は2区の22キロ、全体の中で身につけることが今後の課題だ。

○…「5・7区は未知数だったが、いい走りをしてくれた。今後の自信になるはず」。レース後、大塚製薬の河野監督は、順位を押しげた終盤3区間での力走を喜んだ。

上り坂と向かい風が続く長一場の5区で区間12位と踏ん張った中森＝雅貴は「ラスト3キロは厳しい展開。」と「ピッタリ」と粘ることが出来るか、自分の力を試したい」とより一層の飛躍を誓った。

いい走りしてくれた

岩佐、終盤力ださきる

○…般長2区で坪田（コニカミノルタ）池谷（中国電力）とデッドヒートを展開した大塚製薬のエース岩佐。しかし、終盤に力尽きて区間19位に終わったため「状態は悪くなかった。でも、前の2人は強かった。チームを波に乗せられなかったのは反省材料」。

2月にはアテネ五輪選考会の東京国際マラソンが控える。昨年12月の奄美合宿で500キロを走り込んだ岩佐は「次のレースに向け、ベストを尽くしたい」と意欲をのぞかせた。

徳島駅伝にエール

○…4位入賞した旭化成の宗茂監督は、久々の上位争いに名門復活の手応えを感じていた。

宗監督は現役時代、旭化成のエースとして徳島駅伝に2度招かれた。今年50回を迎えると聞き「一番元気がよかった」頃に走らせてもらった。沿道の温かい声援はいまも覚えている」と懐かしそう。「郡市挙げての取り組みは選手育成の理想。これからも長く続けてほしい」とエールを送った。

幡＝同後＝も「順位を上げることだけを考えて走った。チームに貢献できてよかった」と満足そうだった。

徳島新聞 1/2